

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究者の交流など学部として可能な国際交流を進める。	→ 「外国から招聘するゲストの人数」「研究科メンバーの国際学会出席など国際的な研究活動の頻度」	C
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 7.0.1	(方針) 研究者の交流など学部として可能な国際交流を進める。(現状説明) 開設1年目でまだまだ活発ではないが、教員レベルの国際交流が始まりつつある。
☆ 小項目 7.0.2	(現状説明) アメリカ・アラバマ大学教育学部教授Constace Kamiiny 博士による特別講義と研究会開催。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

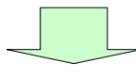
【教育学研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	/	/	/	/	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	/	/	/	/	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	/	/	/	/	—		
		外国人留学生	正規	人	/	/	/	/	2	
			交換	人	/	/	/	/	0	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	/	/	/	/	33.3	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	/	/	/	/	0	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	/	/	/	/	/	—			
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	/	/	/	/	—		
		人 数	長期	人	/	/	/	/	0	
			短期	人	/	/	/	/	0	
		在籍学生比率	長期	%	/	/	/	/	0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		/	/	/	/	0			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	/	/	/	/	0		
		短期	人	/	/	/	/	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	/	/	/	/	0		
		短期	人	/	/	/	/	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	/	/	/	/	—		

注) 正規、交換について
 正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む
 注) 長期、短期について
 指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。
 指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



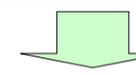
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	現行の交流はあるが、他の領域にも広げる必要がある。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	研究科委員会での検討。
☆ 小項目 7.0.2	研究科教員の任用が現在進行中なので、新しい構成員による新たな展開を検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○開設一年目で無理な点もあるが、今後の国際交流について検討されることが期待されます。

【学内委員】

○小項目7.0.1に示された方針は、行動姿勢ではないでしょうか。教育学研究科の国際交流方針をお示してください。

○現時点での目標は抽象的です。具体的な目標を設定することが期待されます。

○学部が学年進行中でもあり、海外との交流は今後に期待します。

○改善方策の小項目7.0.1の記述「研究科委員会での検討」とは何の検討をされるのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

7.0.1「現状説明」の(方針)部分を下記のように修正。

(方針)教育学研究科の教育研究活動にとって研究者の交流など国際交流は必要である。国際学会参加については、分野により関連する国際学会ない場合があったり、あっても毎年ないものがあるが、あるものについては教員、大学院生の参加を促進する。教員が個人で海外での研究活動を行う場合は、学部としての援助体制を整える。

★

7.0.1「改善方策」を下記のように修正。

分野が多岐にわたるが、研究科委員会での国際交流の具体的方策について検討を行う。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
